

中小企業景況調査報告書

平成 23 年 1 月～3 月期 実績

(平成 23 年 4 月～6 月期 予測)

調査実施時点：平成 23 年 3 月 1 日

京都府商工会連合会

《 目 次 》

1. 中小企業景況調査の概要	2 頁
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】	3 ~ 4 頁
3. 各 業 種 の 景 況	
(1) 製造業の景況	5 ~ 6 頁
(2) 建設業の景況	7 ~ 8 頁
(3) 小売業の景況	9 ~ 10 頁
(4) サービス業の景況	11 ~ 12 頁

D・I とは (景気動向指数)

この報告書の中で用いている「**D・I 指数**」とは、ディフュージョン・インデックスの略で、企業経営者の景気動向の度合いを表す指標として、利用されています。

《算出方法》

前年同期に比べて、

$$\frac{\text{『増加』回答企業の割合}}{\text{(上昇・好転等)}} - \frac{\text{『減少』回答企業の割合}}{\text{(低下・悪化等)}} = \text{D・I}$$

D・I が、**プラス** (+) 値

強気 (楽観) を表す。

D・I が、**マイナス** (-) 値

弱気 (悲観) を表す。

例えば、売上高が前年同期比で、

『増加』回答企業 50%、『不変』回答企業 30%、『減少』回答企業 20% の場合、

$$\text{D・I 指数は、} \quad 50\% - 20\% = 30\%$$

となり、経営者の売上高に対する度合いが、強気気運であることを表しています。

1. 中小企業景況調査の概要

この調査は、商工会地域の産業の状況、地域の経済動向等について、四半期毎に変化の実態等諸状況を迅速かつ的確に収集把握して、経営改善普及事業の効果的な指導資料にするために、全国商工会連合会が実施する調査に連携し、府内の状況を取りまとめたものです。

調査要領、本年度の調査対象商工会、及び、調査回答企業数・対象業種別構成の内訳は次のとおりです。

(1) 調査対象期間

平成23年1月～3月期を対象とした。

調査実施時点 …… 3月 1日 (火)

調査期間 …… 2月23日 (水) ～ 3月 1日 (火)

(2) 調査の方法

(イ) 商工会の経営支援員の訪問による面接調査とした。

(ロ) 調査対象商工会の選定は、管内ごとの市町村人口を勘案し、又、調査対象企業の抽出は、各業種・規模等の有意抽出法とした。

(3) 調査対象商工会

福知山市商工会、向日市商工会、八幡市商工会、京丹後市商工会、南丹市商工会、大山崎市商工会、井手町商工会、宇治田原町商工会、木津川市木津町商工会、京丹波町商工会、与謝野町商工会

(4) 対象業種別構成 及び 回答企業数

業 種	調査対象 企業数	構 成 比	回答企業数	回 答 率
製 造 業	36	20.0%	35	97.2%
建 設 業	33	18.3%	30	90.9%
小 売 業	53	29.5%	50	94.3%
サービ業	58	32.2%	57	98.3%
【 合 計 】	180	100%	172	95.6%

2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

本調査の実施時点は3月1日で、東日本大震災の発生した3月11日以前に、調査を完了しているため、震災の影響は本調査には反映されていない。

≪概要≫

建設業及び小売業が、全産業の売上高 D・I の上昇を牽引

建設業の年度末効果による完成工事高が大きく好転し、また小売業は季節的要素による燃料や家電の売上が好調で全産業の売上高 D・I の上昇を牽引した。

製造業全体として売上額は前期比2.7ポイント低下したが、対前年比では43.4ポイント上昇し、特に機械金属製造業が急回復している。

また、原油の高騰は製造業・サービス業の生産コストアップとともに、車での外出を控えられ、サービス業(宿泊・飲食業)及び小売業の売上高の上昇の足かせとなった。

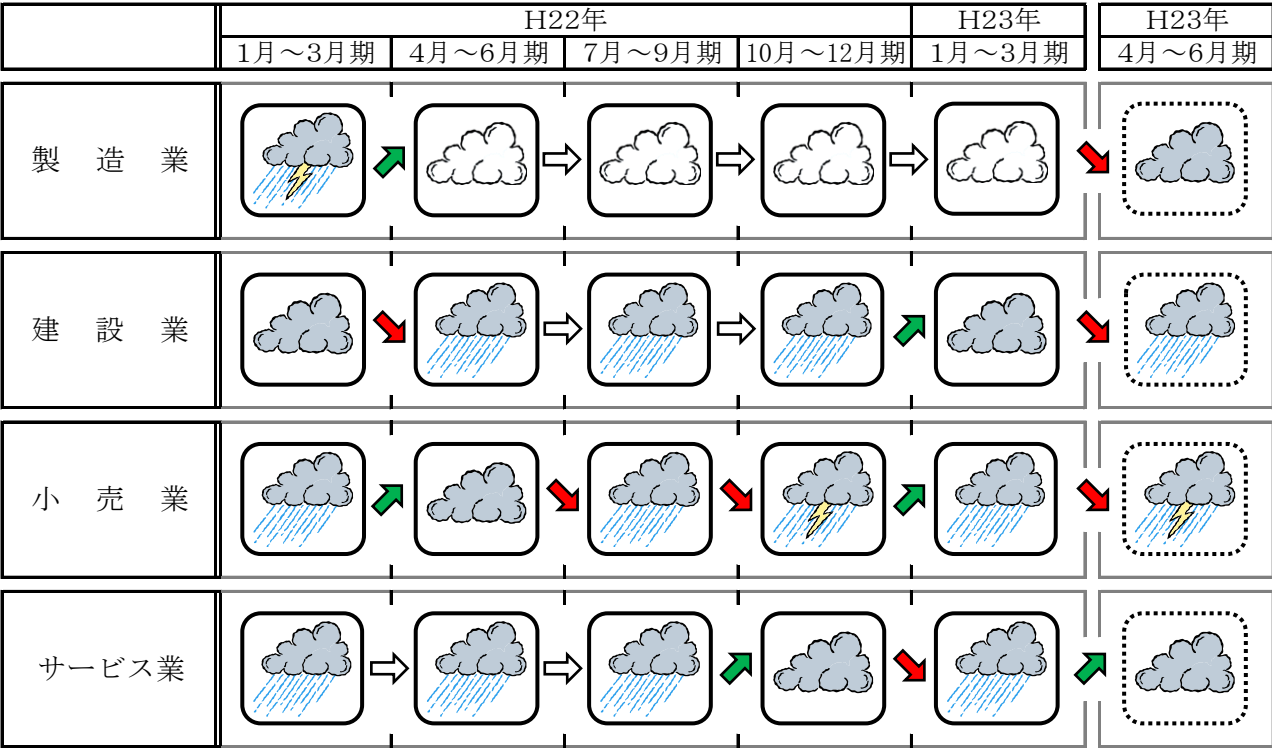
設備投資については、製造業では売上高の回復による生産設備をする企業が多くなってきているが、それ以外の業種については先行き不透明な状況から設備投資に踏み切れない企業が多い。

サービス業はGWでの消費増加、小売業は節約疲れからの回復に期待

震災発生前の時点での来期(4~6月期)の見通しは、製造業は原材料の高騰と円高による生産への影響、建設業は年度末効果の終了による受注工事の減少等、先行きの不透明感は増大している。

しかし、サービス業はGWでの消費の増加等に期待している。また、小売業は「売上額」は悪化すると予測しているが、節約疲れからの回復が期待されている。

業種別景況指標 (景気の天気図) 〈見通し〉



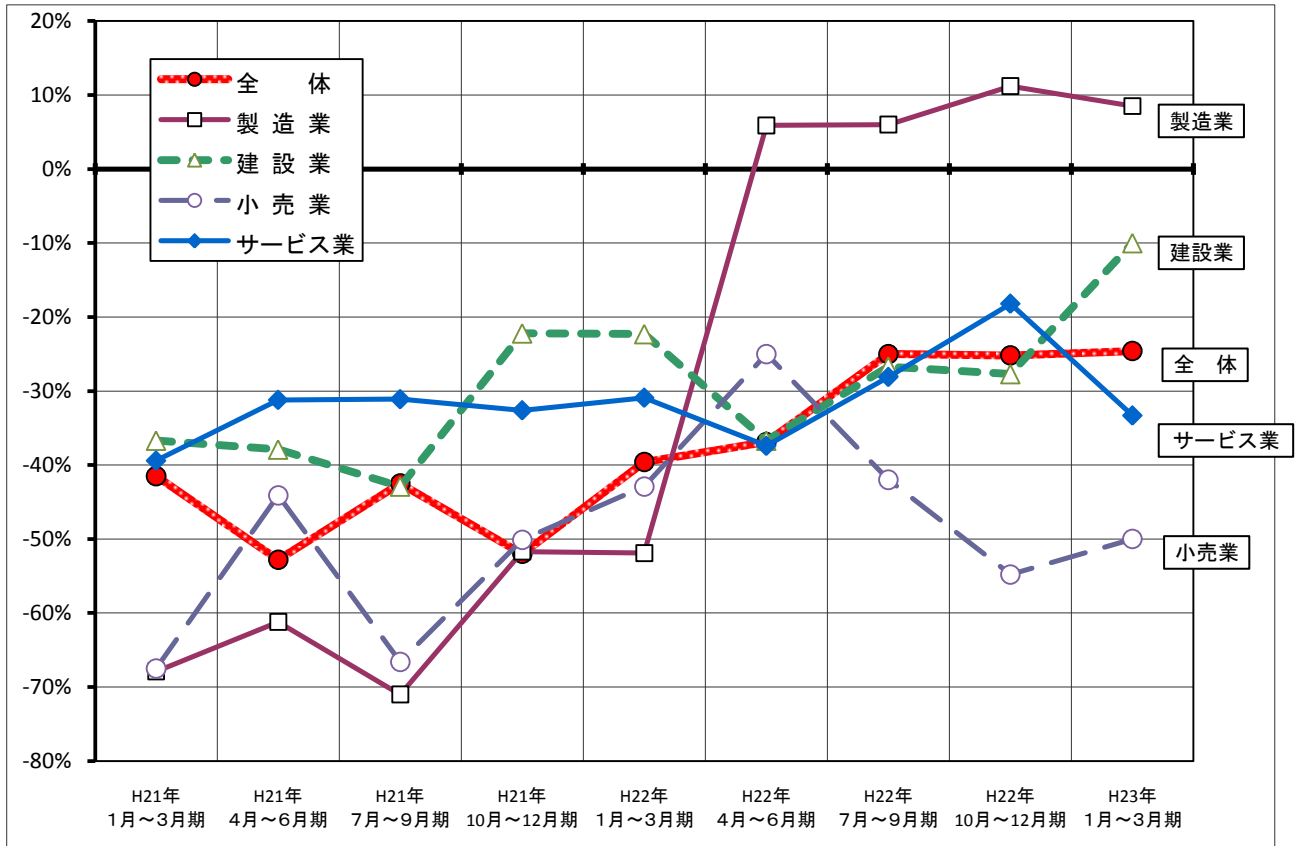
天気図のよみ方

D・I	100.0 ~50.1	50.0 ~25.1	25.0 ~0.1	0.0 ~▲25.0	▲25.1 ~▲50.0	▲50.1 ~▲100.0
指 標						
内 容	特に好転	好 転	やや好転	やや悪化	悪 化	特に悪化

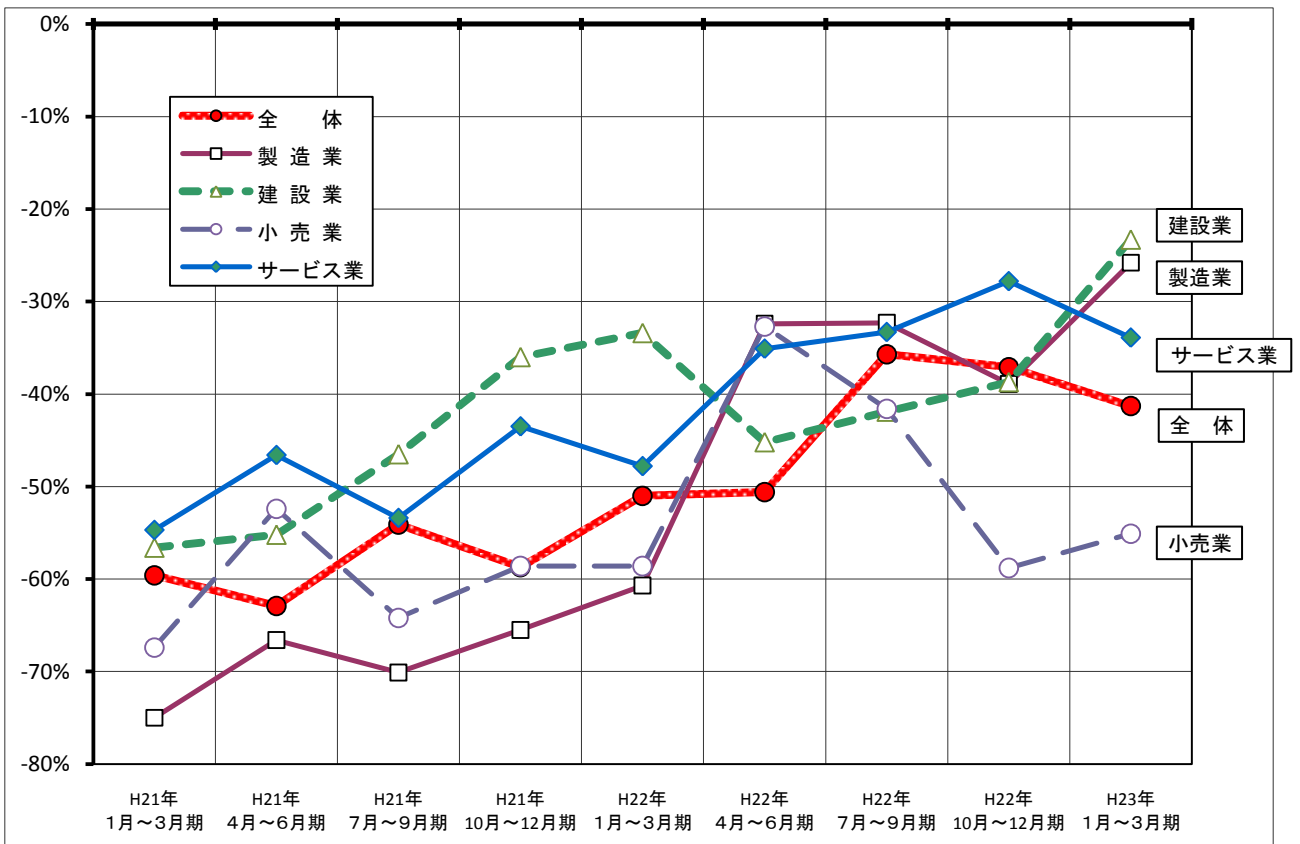
2. 京都府内商工会地域産業の景況【総括】

《売上高と採算の推移》

(1) 売上高 D・I（景気動向指数）の推移 —前年同期比—



(2) 採算 D・I（景気動向指数）の推移 —前年同期比—



3. 各業種の景況

(1) 製造業

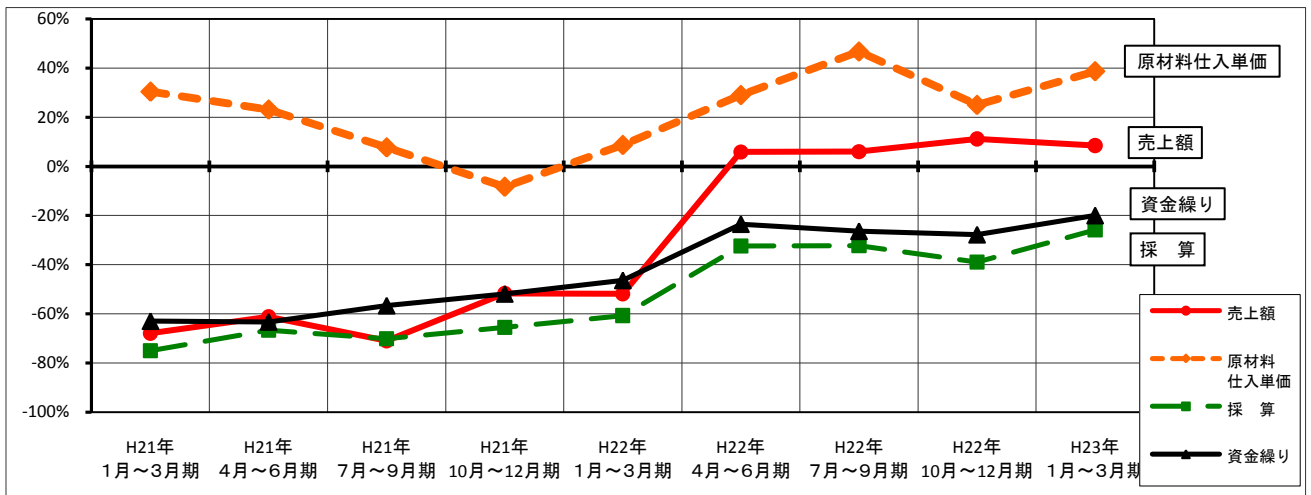
D・I (景気動向指数・前年同期比) 指数は、売上額において若干低下しているが、採算・資金繰りは上昇(好転)している。

売上額も「悪化」と見ている企業は減っており、対前年比で見れば43.4ポイント上昇し、急回復している。全体として、好転傾向を維持していることが伺える。

経営上の問題点では、製品単価の低下と原材料の上昇の板ばさみ状況になっている企業が多い。

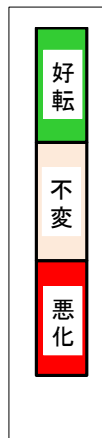
① 製造業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

製造業	H22年				H23年	(予測)
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期
売上額	▲ 51.9 %	5.9 %	6.0 %	11.2 %	8.5 %	▲ 17.7 %
原材料仕入単価	8.7 %	29.0 %	▲ 46.7 %	25.0 %	38.7 %	49.9 %
採算	▲ 60.7 %	▲ 32.4 %	▲ 32.3 %	▲ 38.9 %	▲ 25.8 %	▲ 30.3 %
資金繰り	▲ 46.4 %	▲ 23.5 %	▲ 26.4 %	▲ 27.8 %	▲ 20.0 %	▲ 29.4 %

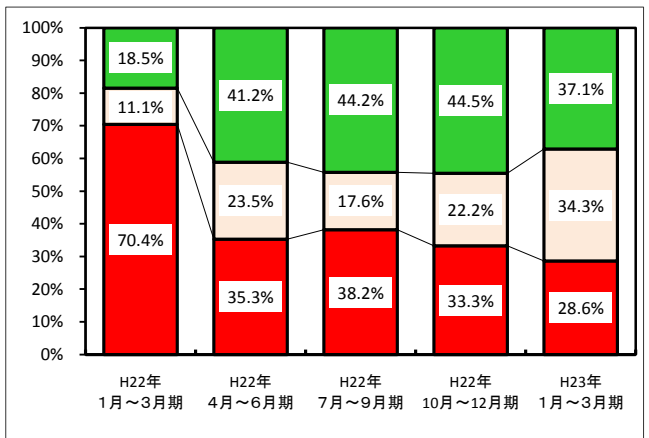


売上額 …… プラス 8.5%
(前期比 2.7ポイント低下)
採算 …… マイナス 25.8%
(前期比 13.1ポイント上昇)
資金繰り …… マイナス 20.0%
(前期比 7.8ポイント上昇)

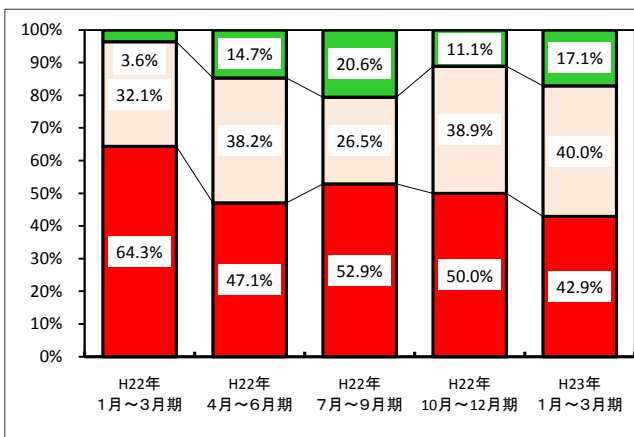
売上額D・Iは低下しているが、「悪化」したと見る企業は、2期連続で減少してる。
金属製品製造業は、売上額・採算において、好転傾向が伺える。



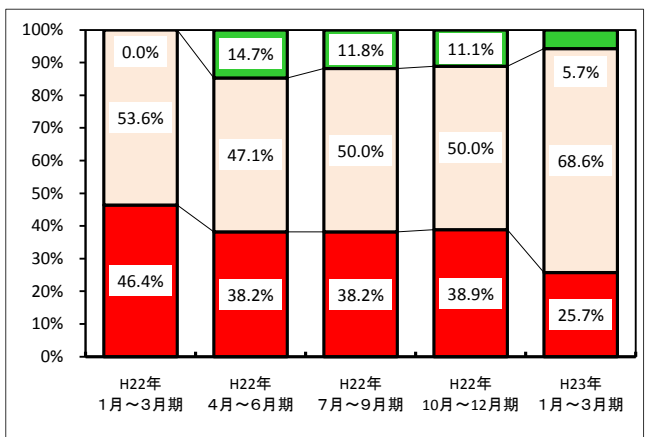
※『売上(加工)額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



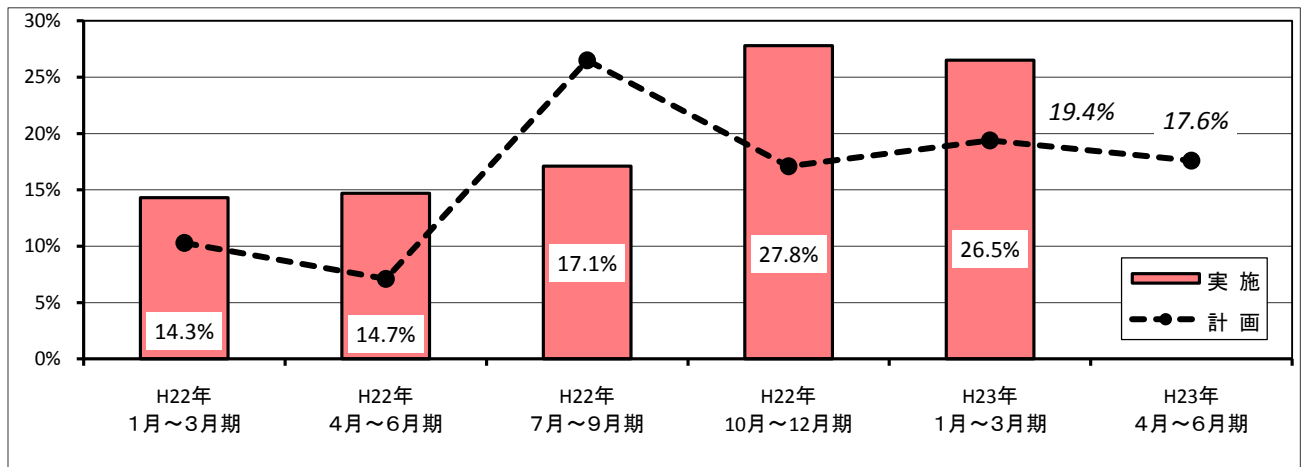
3. 各業種の景況

(1) 製造業

② 設備投資の状況

前期に比べ、設備投資を実施した企業は若干減少したが、前々期以前に比べると実施している企業が多くなっており、業界全体に設備投資の動きが見られる。

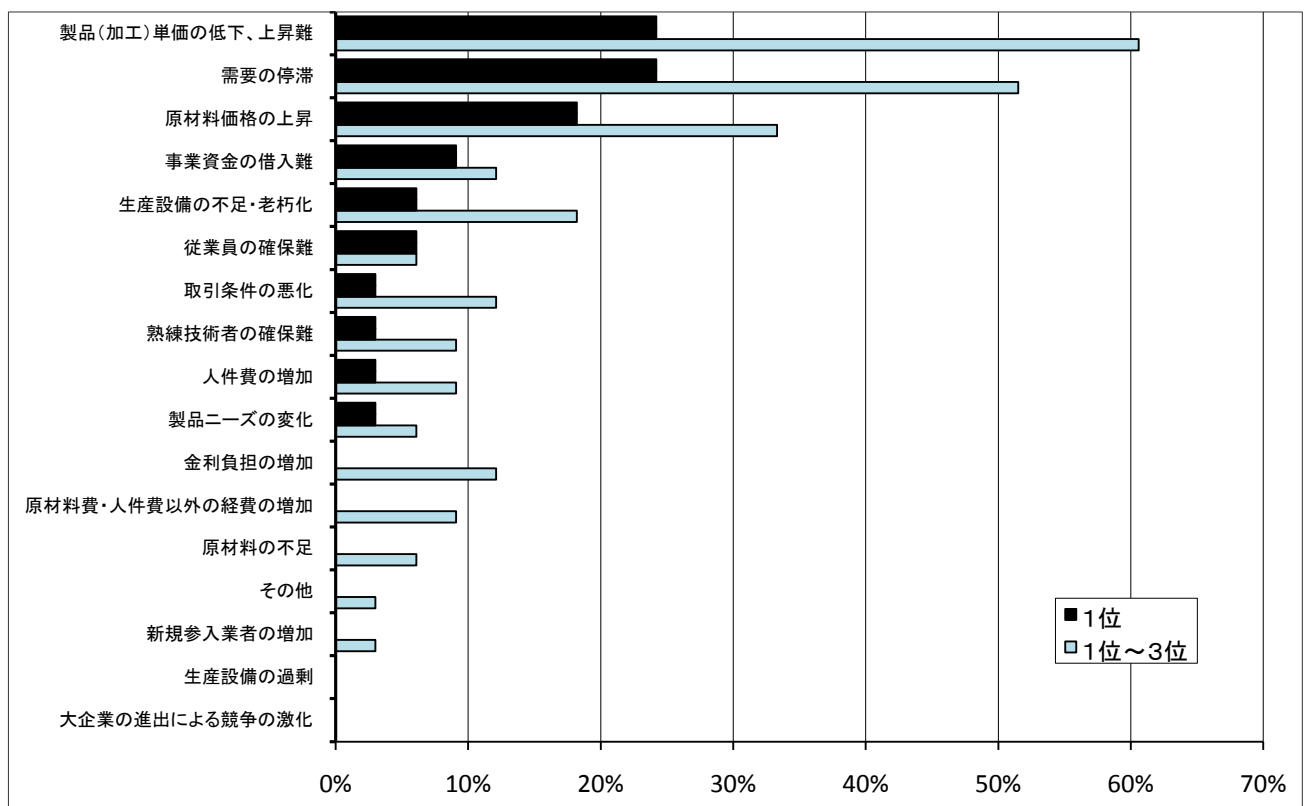
製造業	H22年				H23年	(計画)	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	H23年 4月～6月期	
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	16.7%	
車両・運搬具	25.0%	40.0%	16.7%	10.0%	33.3%	0.0%	
生産設備	100.0%	20.0%	50.0%	60.0%	66.7%	66.7%	
設備投資の実施	14.3%	14.7%	17.1%	27.8%	26.5%	17.6%	



※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

「需要の停滞」を1位に上げている企業が前期に比べ減少しており、受注の回復傾向が見られる。製品(加工)単価の低下と、原材料価格の上昇を上げる企業が前期より増加し、原材料価格の上昇を製品価格に転嫁できない状況が伺える。



(注) 問題点の1位に上げた企業の割合

3. 各業種の景況

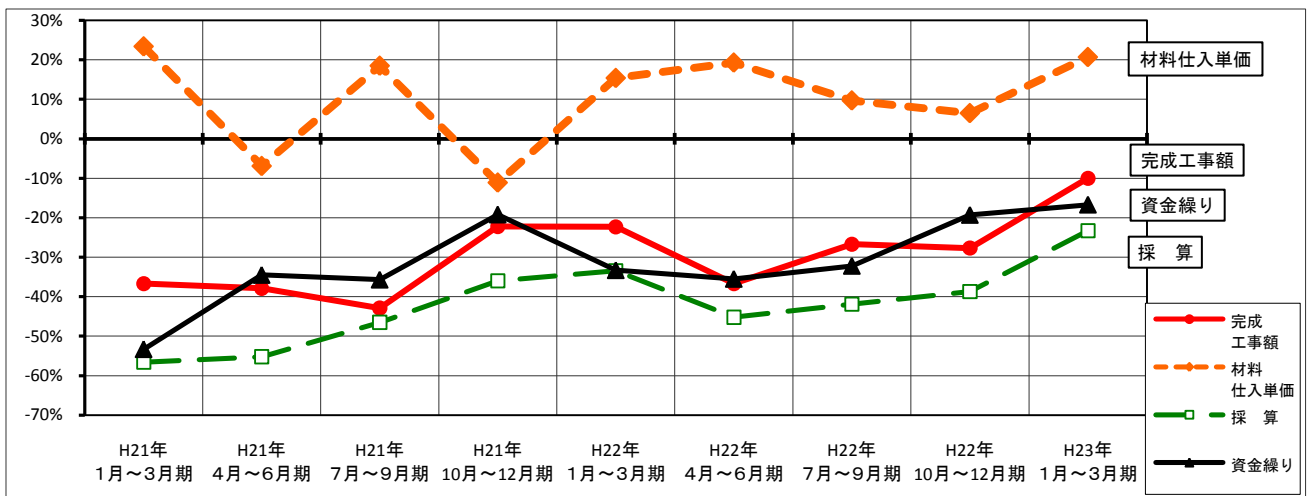
(2) 建設業

D・I（景気動向指数・前年同期比）指数は、年度末効果により「完成工事額」が大きく好転し、「採算」においても改善された。こうした事は、「需要の停滞」を経営上の問題点とあげている企業が減少していることから伺える。

年度末効果終了による反動減による「悪化」が来期以降も見込まれ、設備投資に慎重になる企業が多い。

① 建設業 D・I 値（景気動向指数）の推移 —前年同期比—

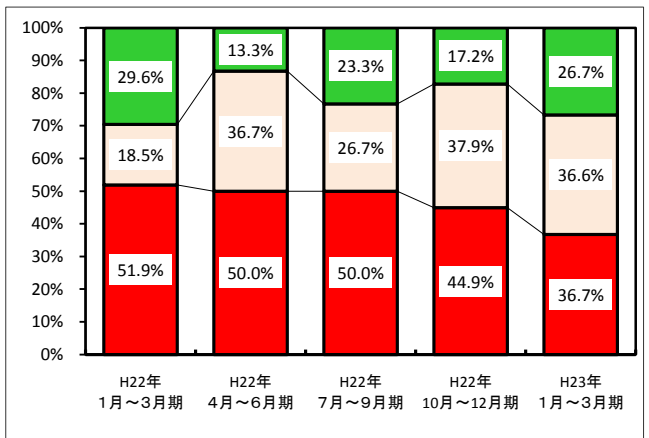
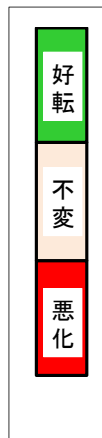
建設業	H22年				H23年	(予測)
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期
完成工事額	▲ 22.3 %	▲ 36.7 %	▲ 26.7 %	▲ 27.7 %	▲ 10.0 %	▲ 42.9 %
材料仕入単価	15.4 %	19.3 %	9.7 %	6.5 %	20.7 %	3.9 %
採算	▲ 33.4 %	▲ 45.2 %	▲ 41.9 %	▲ 38.7 %	▲ 23.3 %	▲ 40.7 %
資金繰り	▲ 33.3 %	▲ 36.5 %	▲ 32.2 %	▲ 19.3 %	▲ 16.7 %	▲ 42.8 %



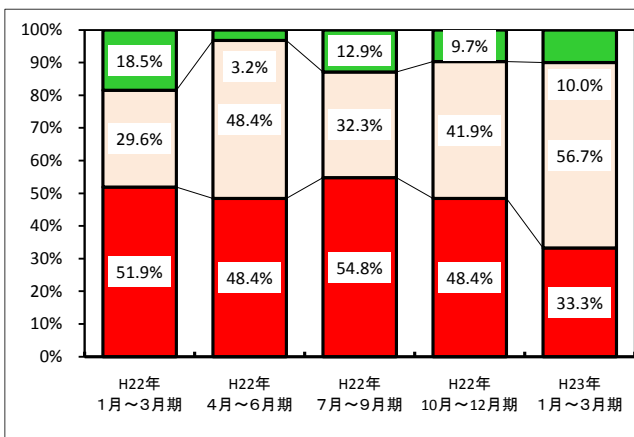
※『完成工事額』の状況 前年同期比（D・I 値）

完成工事額 … マイナス 10.0%
 （前期比 17.7ポイント上昇）
 採算 …… マイナス 23.3%
 （前期比 15.4ポイント上昇）
 資金繰り …… マイナス 16.7%
 （前期比 2.6ポイント上昇）

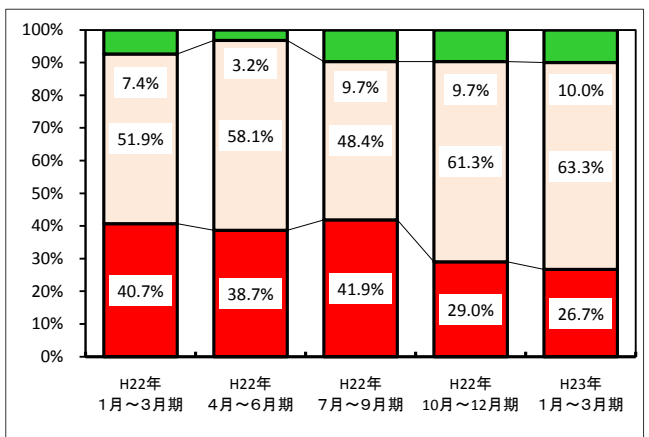
完成工事額D・Iが年度末効果により、好転したことが、採算・資金繰りにおいても、「好転」につながった。



※『採算』の状況 前年同期比（D・I 値）



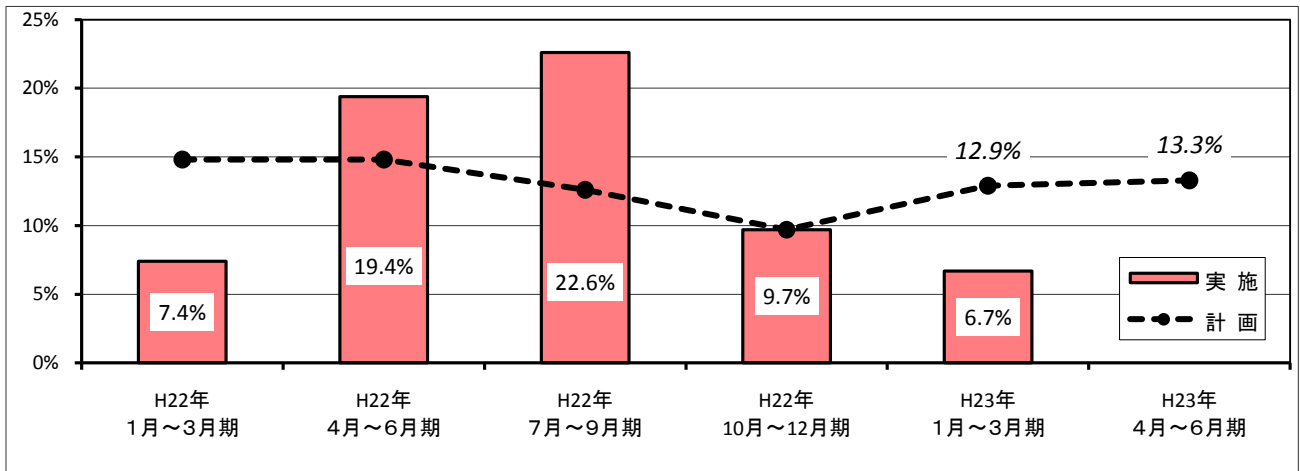
※『資金繰り』の状況 前年同期比（D・I 値）



② 設備投資の状況

「完成工事額」の好転により、「資金繰り」が若干改善されたが、「完成工事額」の好転状況の継続が不透明であり、設備投資においては慎重になっている。

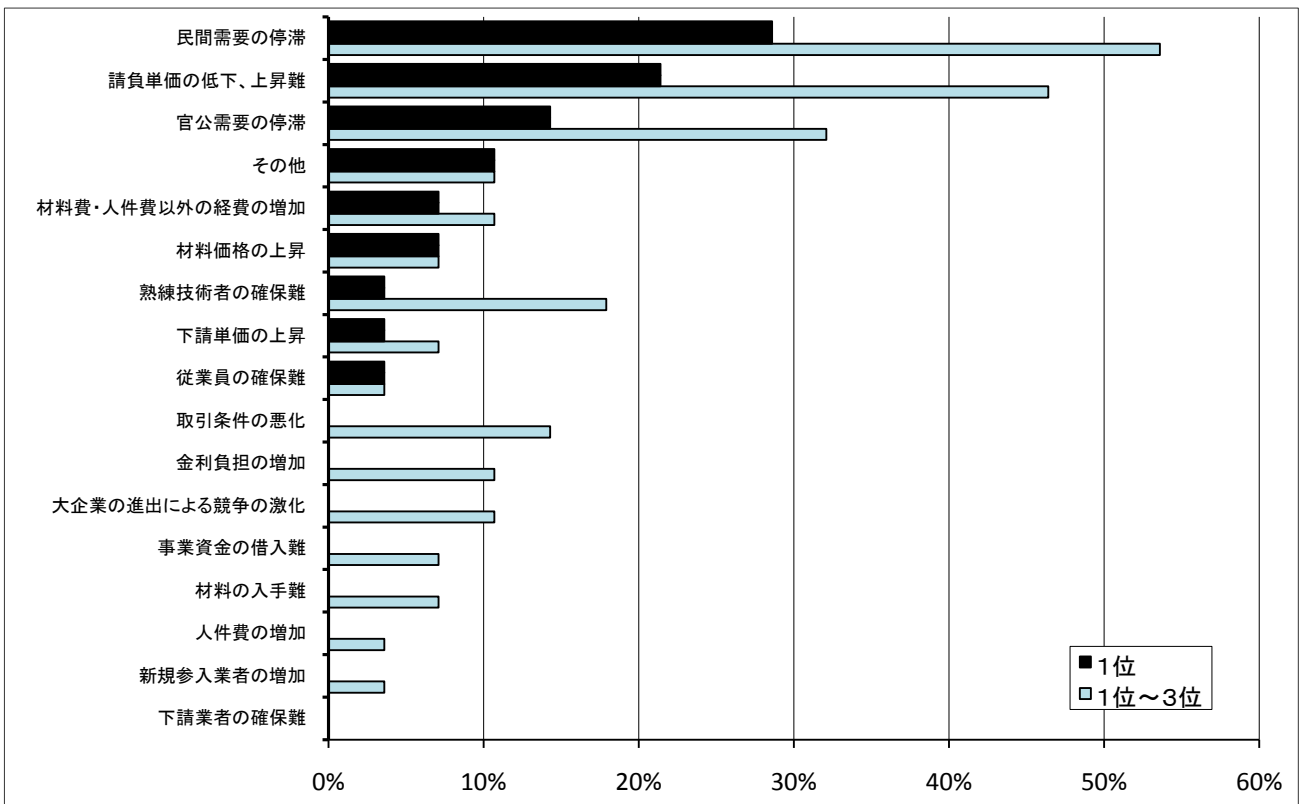
建設業	H22年				H23年	(計画)	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	H23年	H23年
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4月～6月期	0.0%
車両・運搬具	50.0%	66.7%	71.4%	33.3%	50.0%		25.0%
建設機械	50.0%	0.0%	14.3%	66.7%	0.0%		25.0%
設備投資の実施	7.4%	19.4%	22.6%	9.7%	6.7%		13.3%



※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

受注(需要)が好調であったことから、「民間需要の停滞」「官公需要の停滞」を問題点として上げる企業が減少している。一方、今期から「材料価格の上昇」「下請単価の上昇」を1位に上げる企業が出てきており、今後「採算」D・Iの悪化要因となりつつある。



(注) 問題点の1位に上げた企業の割合

3. 各業種の景況

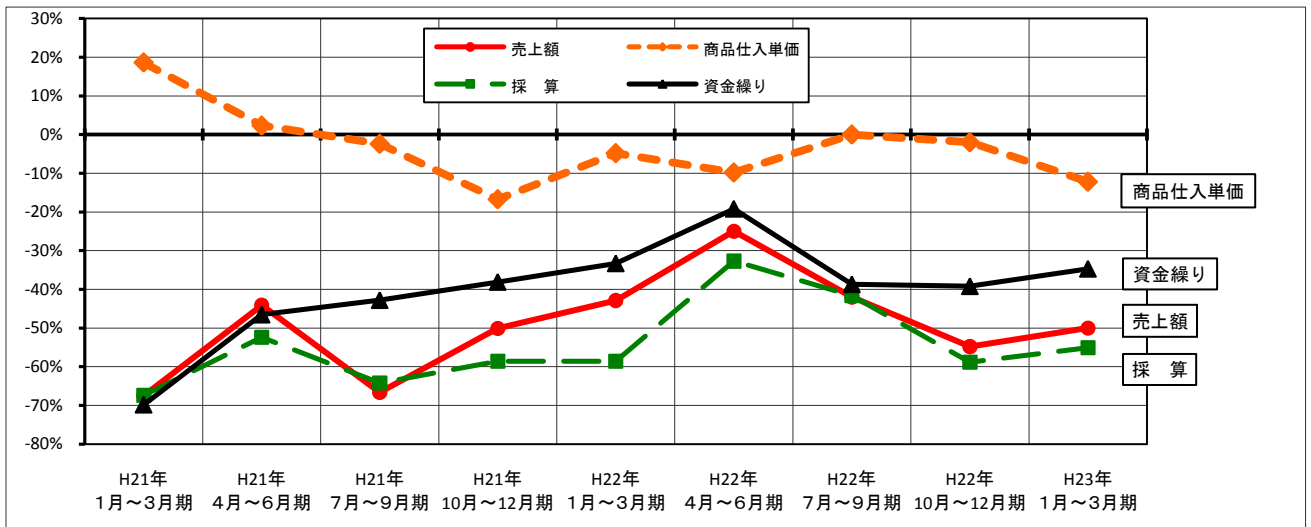
(3) 小売業

全業種の中で、小売業だけが D・I (景気動向指数・前年同期比) 指数の「好転(上昇)」と「不変」を足しても、50%を超えない厳しい状況が、10期連続して続いている。

経営上の問題点としては、顧客の「大型店中型店への流出」「他地域への流出」が継続した問題点として上げられる中、家電販売や燃料小売業は好調で、取扱商品によって景況にバラツキがある。

① 小売業 D・I 値 (景気動向指数)の推移 —前年同期比—

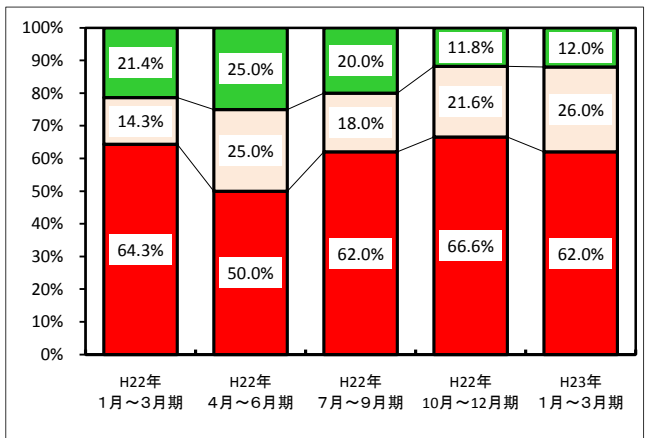
小売業	H22年				H23年	(予測)
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期
売上額	▲ 42.9 %	▲ 25.0 %	▲ 42.0 %	▲ 54.8 %	▲ 50.0 %	▲ 55.0 %
商品仕入単価	▲ 4.8 %	▲ 9.8 %	0.0 %	▲ 2.0 %	▲ 12.2 %	▲ 14.6 %
採算	▲ 58.6 %	▲ 32.7 %	▲ 41.6 %	▲ 58.8 %	▲ 55.1 %	▲ 55.1 %
資金繰り	▲ 33.3 %	▲ 19.2 %	▲ 38.7 %	▲ 39.2 %	▲ 34.7 %	▲ 39.6 %



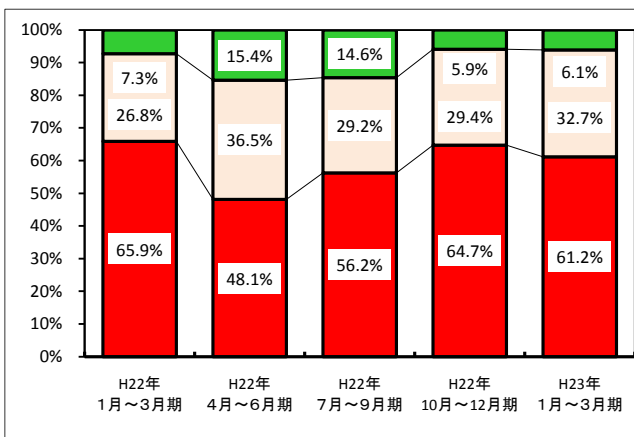
売上額 …… マイナス 50.0%
(前期比 4.8ポイント上昇)
採算 …… マイナス 55.1%
(前期比 3.7ポイント上昇)
資金繰り …… マイナス 34.7%
(前期比 4.5ポイント上昇)

「売上額」「採算」が2期連続「悪化」していたが、今期は若干の改善に転じ、下げ止まり傾向が伺える。
原油価格の高騰もあって、燃料小売業の「売上額」増加が目立った。

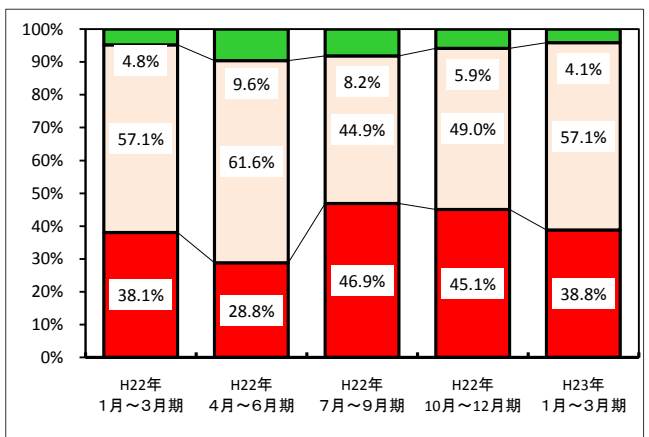
※『売上額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



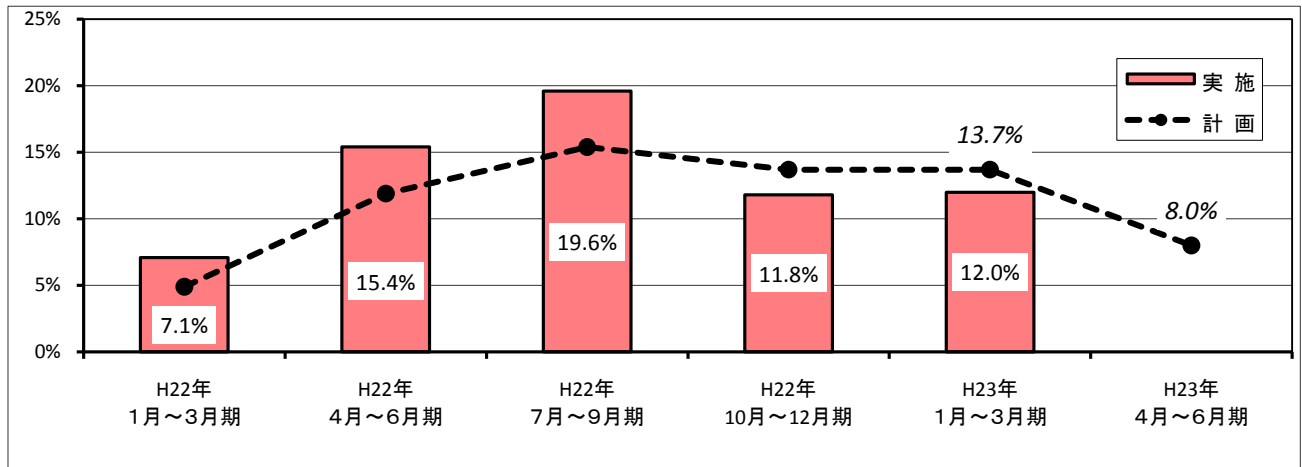
※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



② 設備投資の状況

「売上額」が伸び悩み状況で、設備投資をする企業が少ない中、運搬等の車両購入、業務効率向上のOA機器購入等の限られた設備投資を実施している。

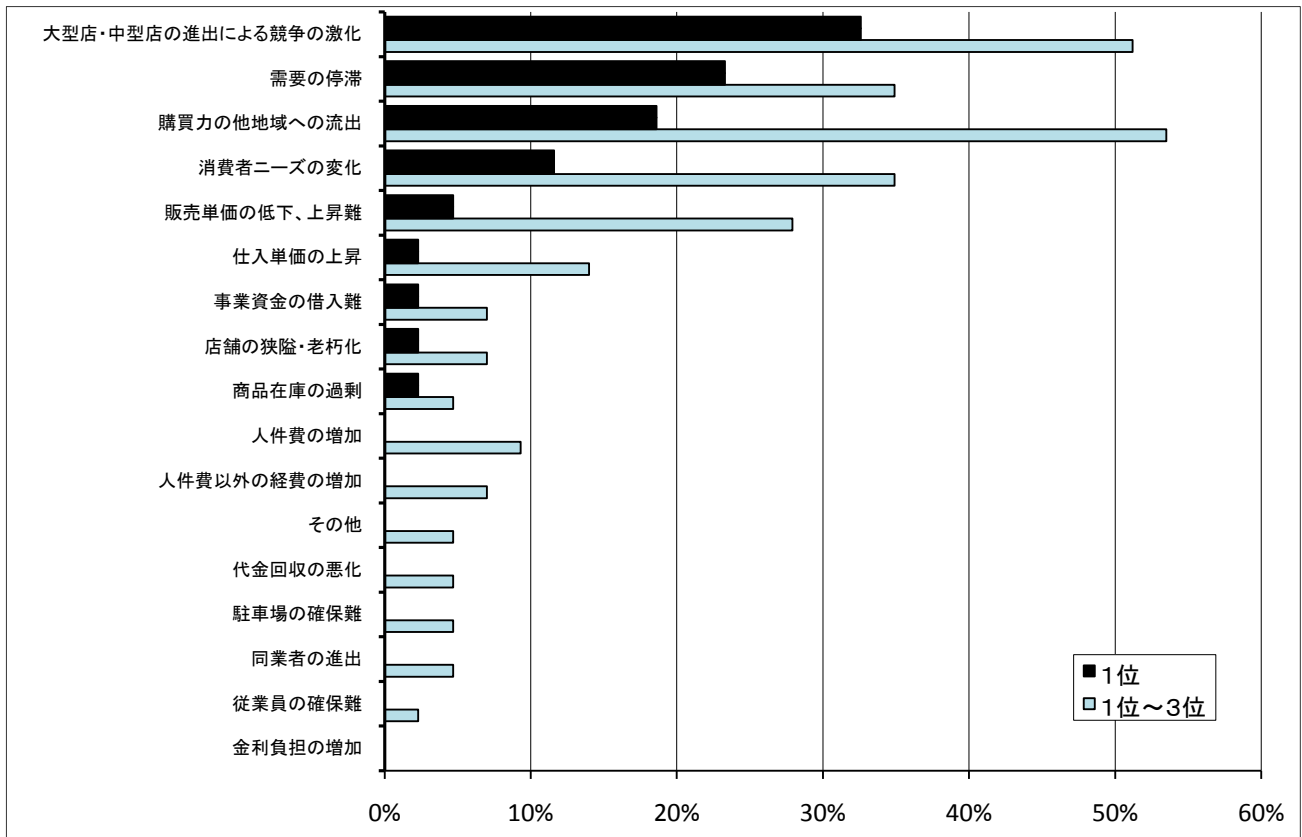
小売業	H22年				H23年	(計画)	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	H23年 4月～6月期	
土地	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
車両・運搬具	0.0%	25.0%	50.0%	33.3%	50.0%	0.0%	
販売設備	33.3%	37.5%	10.0%	16.7%	16.7%	50.0%	
設備投資の実施	7.1%	15.4%	19.6%	11.8%	12.0%	8.0%	



※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

「購買力の他地域への流出」を1位に上げている企業が北部地域の企業に目立ち、大型店・量販店の低価格販売が続く中、顧客の他地域への流出の広がりを懸念していることが伺われる。



(注) 問題点の1位に上げた企業の割合

3. 各業種の景況

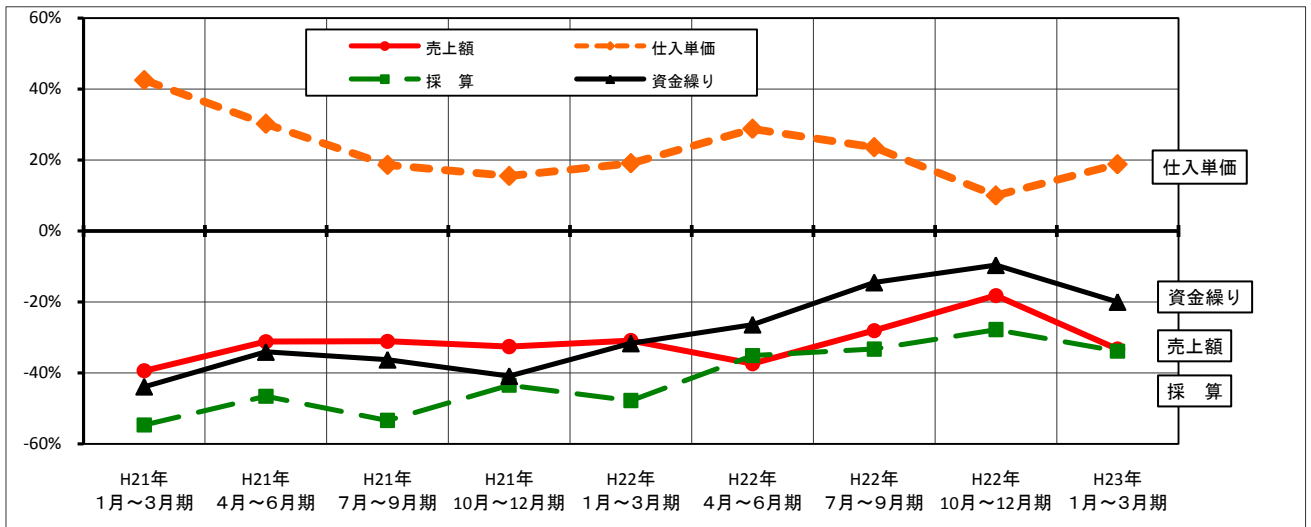
(4) サービス業

D・I（景気動向指数・前年同期比）指数は、前期においては、年末需要の増加から、「売上額」が好転したが、今期は一転「悪化」し、以前の水準に戻った。原油等の高騰により、宿泊・飲食業は外出を控えられる等、「売上額」が「悪化」し、また、「洗濯・理美容業」は材料等仕入単価の上昇により採算が「悪化」した。

来期、唯一「好転」予測の業種であり、行楽シーズン・GW等による需要の増加が見込まれている。

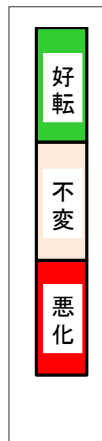
① サービス業 D・I 値（景気動向指数）の推移 ー前年同期比ー

サービス業	H22年				H23年	H23年	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	
売上額	▲ 30.9 %	▲ 37.4 %	▲ 28.1 %	▲ 18.2 %	▲ 33.3 %	▲ 21.5 %	
仕入単価	19.1 %	28.8 %	23.6 %	10.0 %	18.8 %	29.4 %	
採算	▲ 47.8 %	▲ 35.1 %	▲ 33.3 %	▲ 27.8 %	▲ 33.9 %	▲ 29.1 %	
資金繰り	▲ 31.7 %	▲ 26.4 %	▲ 14.5 %	▲ 9.6 %	▲ 20.0 %	▲ 18.9 %	

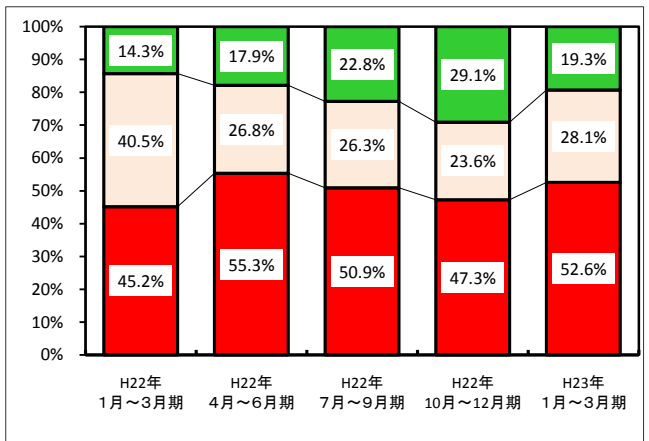


売上額 …… マイナス 33.3%
 (前期比 15.1ポイント低下)
 採算 …… マイナス 33.9%
 (前期比 6.1ポイント低下)
 資金繰り …… マイナス 20.0%
 (前期比 10.4ポイント低下)

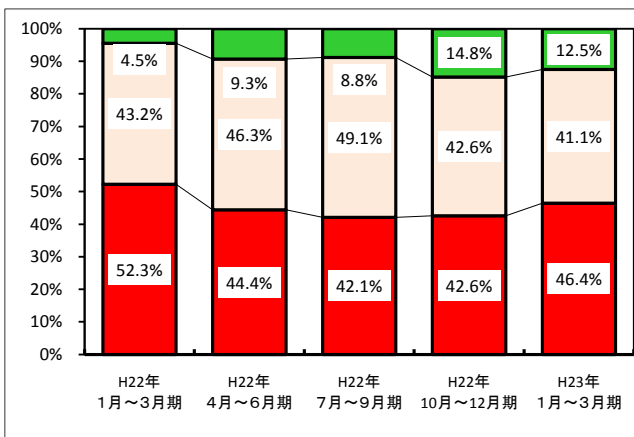
前期は、年末需要の増加により、「売上額」が好転を続けたが、今期は、「売上」「採算」「資金繰り」とも悪化し、前年前半の水準に戻った。
 旅客運送業は「好転」、洗濯・理美容業、飲食業は「悪化」となった。



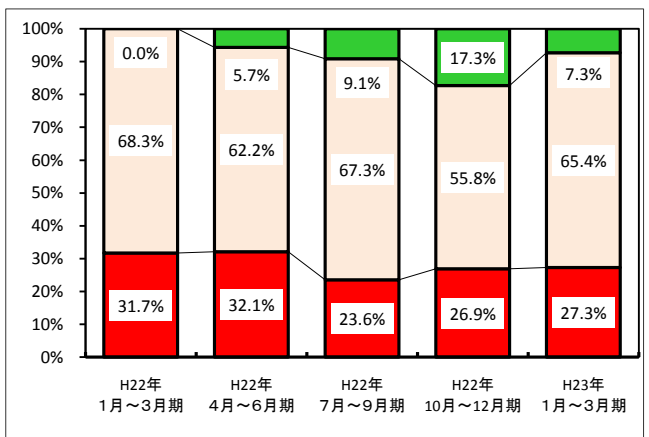
※『売上(収入)額』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『採算』の状況 前年同期比 (D・I 値)



※『資金繰り』の状況 前年同期比 (D・I 値)



3. 各業種の景況

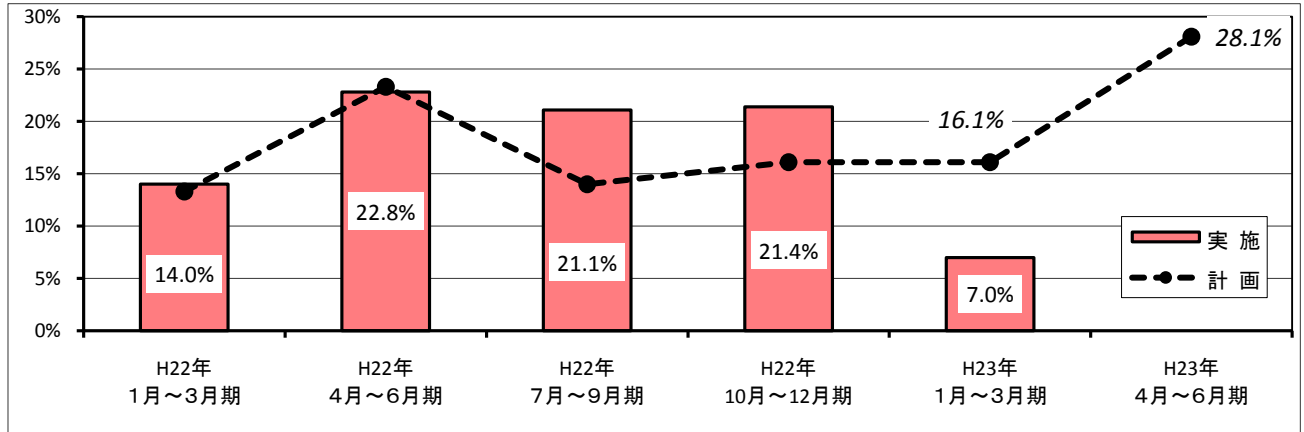
(4) サービス業

② 設備投資の状況

「売上額」の継続的な「好転」が望めない状況の中で、どの企業も設備投資には慎重になっている。

また、来期の「売上額」を増加予測をしていることから、来期の設備計画が増加となっている。
(計画)

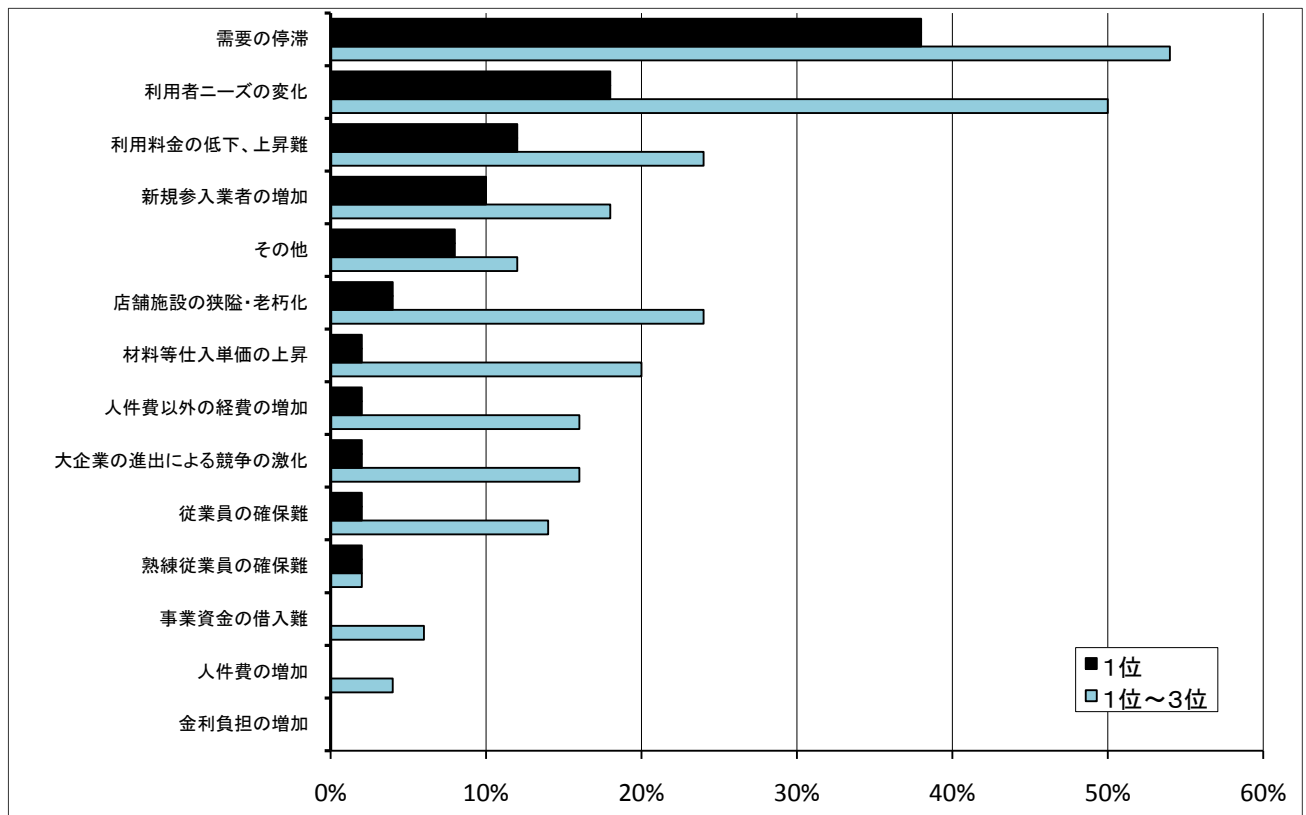
サービス業	H22年				H23年	H23年	
	1月～3月期	4月～6月期	7月～9月期	10月～12月期	1月～3月期	4月～6月期	
土地	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%	
車両・運搬具	33.3%	23.1%	33.3%	16.7%	0.0%	31.2%	
サービス設備	33.3%	38.5%	41.7%	33.3%	25.0%	25.0%	
設備投資の実施	14.0%	22.8%	21.1%	21.4%	7.0%	28.1%	



※ 計画については、調査実施時期を基準に翌期の予定を記入しているため、グラフに期の差が生じる。

③ 経営上の問題点

「需要の停滞」と「利用料金の低下、上昇難」を1位に上げる企業が、前期より大幅に増加した。家計の出費を抑えたためか、「洗濯・理美容業」「飲食業」が「売上額」の「悪化」を問題点の1位に上げる企業が増えた。



(注) 問題点の1位に上げた企業の割合

京都府商工会連合会

615-0042 京都市右京区西院東中水町17番地
(西大路通り五条下ル東側)
京都府中小企業会館四階

TEL : 075-314-7151

FAX : 075-315-1037

e-mail : office@kyoto-fsci.or.jp